

うえるうえる

Well Well

第32号

2010年9月臨時号



夏の終わり・石垣島

田中 寛先生

坂井瑠実クリニック 理事長 坂井 瑠実



かねてより招聘を要請して来ました田中寛先生、10月1日より、芦屋坂井瑠実クリニックの院長に就任していただことになりました。

平成10年10月、御影に開院した坂井瑠実クリニックも13年目に入ります。法人化、芦屋坂井瑠実クリニック開院と、理想を掲げて突っ走って来てしましたが、やつと少し認知され、患者数も職員数も増えて、そろそろ本気で中固めをして、次のステップアップを図らねばならない時期に来たと思っています。田中先生は、もちろん腎不全医療、透析医療の第一人者で、研究者としても実績をあげて来られていますが、まずは抜けた語学力で、世界の腎不全透析医療に精通され、国際学会でも活躍されています。先生とは、大野記念病院の副院長時代から親交があり、大学の後輩ということもあつて、何回か国際学会を一緒にさせていただきました。私はいろいろな国の透析施設を見学するのが好きで、機会あるごとに見せてもらつてきましたが、週3回4時間が当たり前の、プライバシーのない透析室、狭いベッド間隔に男女混合のパジャマ姿の“日本の透析”は特殊なのだと強く感じております。諸外国の透析は個性豊かで、いろいろな工夫がなされており、学ぶことがいっぱいあります。日常診療を少し軽くして、ゆっくりものを考える時間を持とり、海外の在宅血液透析も勉強して、在宅血液透析支援センターなるものを立ち上げたいと夢を膨らませています。どんな病気でも、自分の病気の治療をどのようにしたいかを考えるのは患者さん自身ですから、私たちは、個々のニーズに合わせた個別化が図れる透析施設をつくって行きたいと考えています。御影の本院は喜田院長・芦屋は田中院長で、患者さんに貢献出来るグレードの高い腎不全医療が提供出来ると確信していますし、私が目指して来た“普通の生活ができる透析”長時間透析、オーバーナイト透析、隔日透析、在宅透析(CAPD 在宅血液透析)等々をさらに進化させていただけるものと楽しみにしています。

なお、私は芦屋で月曜・腎炎腎不全保存期外来、土曜は今までどうりに第1週、第3週に在宅血液透析の外来を。火、木、金は田中先生に透析外来を行なつていただきます。御影では第2週、第4週の土曜に外来を行なうつもりです。

少し体制が変わりますがどうぞよろしくお願ひいたします。

はじめまして

田中
寛



日本泌尿器科学会認定医・指導医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会認定医・指導医

て医師や研究者と交流することも多
くなりました。

これとは別に、1980年にパリと
フランクフルトで透析を受けるツアーの
添乗医師をすることになりました。ヨ
ーロッパツアーはわが国ではじめてで

川教授が会長、私が事務局を担当）、約200名の医師・研究者の皆さん（欧米から16名、アジアから4名）に参加していただきました。この時、坂井理事長にも出席していただきました。

面談し、透析室の見学、通訳との面接を済ませ、その2週間後に再び18名の透析患者さんとその家族、総勢26名でツアーバーに出かけました。初対面の患者さんにはかなり戸惑いましたが透析施設、透析内容、スタッフのお話

を色々と伺い、どんどん親しくなつて行きました。その後は、海外の透析施設の紹介、透析装置や海外の透析施設からの質問への対応、添乗する看護師や臨床工学技士を紹介するなどボランティアとして協力しました。

11年間に及ぶ大学病院での業務の後、大野記念病院（医療法人、大阪市西区）に転勤しました。そこでは泌尿器科の新規開設と透析ベッドが同一フロアで100床という世界でもっとも大き

な（当時、同一フロアとしては）透析室の運営・診療を任せられました。2

名の医師で始め、13年後の退職時には
7名の医師で腎臓病、透析療法、泌

尿器科を担当しました。新病院開院時には国際シンポジウムを開催し（前



太田和夫先生を偲ぶ

坂井瑠実クリニック 理事長 坂井瑠実



去る7月20日、

太田和夫先生がご逝去なさいました。

腎不全医療の黎明期から移植、透析の最前線でご活躍、常に移植学会、透析学会を

引っ張つてこられた大先生！まさに腎不全医療界の巨星でした。臨床工学技士の誕生も先生のご努力がなければ実現は不可能だったと思いま

す。先生発案の経過措置のための講習会、兵庫県も透析医会・臨床検査技士会共催で日曜ごとに講習会を行い、第1回目の国家試験にこぎつけた思い出は、懐かしいものです。坂井瑠実クリニックも開院当初よりかわいがつていただきました。平成10年10月10日の御影の開院式にも東京から飛んできましたし、3周年・法人認証式には

「透析はあなたのパートナー」という題名で記念講演をしていただきました。第13回サイコネフロロジー研究会の開催では、会場に入りきれない参加者の対応に急速ビデオコーナーを特設せねばならなかつたほどの盛会を、先生は心から喜んでください

ました。患者さんの診察に、シャントの手術に、芦屋の開院にと、本当に気軽に来ていました。だき、喜田院長の結婚式にも、後継者の大変な日には行きましょ

う！といわれて参列して下さいました。考えてみるとこのクリニックも随分いろいろお世話になつたと感慨一入です。常に患者さんことを思い、医療従事者



平成12年 第1診察室で外来診察



平成13年 創立3周年記念講演で



平成18年 芦屋クリニックの屋上で

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

患者会(友愛会) 会長 中村 弘道



味覚の秋が待ちどうしい今日この頃ですが、患者の皆さんお元気でしょうか？

猛暑が続いて厳しい夏を元気で過ごせたのも、坂井瑠実クリニックのお陰です。医療制度が厳しくなるにもかかわらず長時間透析を進めてくださる理事長、院長はじめスタッフの皆さんに感謝いたします。病院の為でなく私たち透析患者が毎日元気で透析生活を送るためにいろいろご尽力してもらっていることを理解して長時間透析頑張っていきたいと思います。患者会「友愛会」の活動には会員の皆さんにご理解いただきいつも大変お世話になっています。透析医療が始まったころ「金の切れ目が、命の切れ目」と言われたのも昔話ではありません。安心して透析が受けられる福祉制度が確立されたのは、私たちと同じ透析患者ながら、国や自治体に透析の悲惨な実情を訴え続けて来られた、多くの先輩たちの血の滲むような努力のお陰だということを、私たちは決して忘れてはなりません。会の運営は皆さんからお預かりする会費で成り立っています。皆さん一人ひとりが腎友会を支えていることになります。「一人はみんなのために、みんなはひとりのために」これが腎友会を運営する基本理念です。医療や患者を取り巻く問題はたくさんあり、これらを解決する為にはど

うにもならないことも多く、同じ悩み願いを持った仲間が集まって組織を作り、一人ひとりの小さな声を集めて大きな声で訴えることが大切なのです。全腎協や兵庫県腎友会の活動によって透析患者の命と暮らしを守るため、国会や県、市町、関係機関に働きかけた結果、次の様な事項が実現しました。身体障害者に対する医療費補助制度の適用によって透析の自己負担の軽減。公共交通機関の割引制度。有料道路通行料金割引制度。駐車禁止除外ステッカーの交付。障害年金。携帯電話のハーティー割引。公共料金の利用料減免制度。税金の減免制度等、他の病気の患者さんより恵まれた環境にあると思います。ですが毎年患者数が増えながらも、組織率は高齢化により減少しているのが現状です。坂井瑠実クリニックの患者さんで未加入の方「友愛会」への加入よろしくお願ひします。理事長はじめスタッフの皆さんにもご協力よろしくお願ひします。「友愛会」では毎年夏のバス旅行、年末のクリスマスパーティーを開催しています。是非一度参加してください。坂井瑠実クリニック患者会「友愛会」入会ご希望の方は、透析の各時間帯に幹事がおりますので、声をかけてください。よろしくお願ひします。

編集後記

編集委員長
城井 慶子

皆様こんにちは。
今回は、田中先生のご紹介を中心にお読み頂きました。

これからうえるうえるにおいても
田中先生にご参加頂き、より充実した
機関紙となるよう頑張っていきます。

今年の連日猛暑、本当に大変でした
ね。皆様はどうに過ごされたで
しょうか？ 夏の間は暑くて食欲が落
ちたり、どこか体がすつきりせず、体
調が思わしくなかつた方々も多いので
はないでしょうか？ 同じように透析
をされていても、体調や水分管理は
個々によりずい分異なつてきます。夏
の疲れを秋に持ち越さないよう、この
時期に充分体調を整えて楽しい秋・冬
シーズンを迎えましょう。



発行所
医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話〇七八一八二二一八一一一
〒六五八一〇〇四六
神戸市東灘区御影本町二丁目一一一〇
顧問
城井慶子
発行責任者
坂井瑠実
顧問
三上珠実
発行責任者
坂井瑠実
編集責任者
城井慶子
発行日
平成二十二年九月二十日
印刷
田中印刷出版株式会社
〒六五七一〇八四五
神戸市灘区岩屋中町三一一四